

別紙様式1

令和7年 福祉文教委員会 第1回議会報告会

令和8年1月8日

委員長 【 小林 恵美子 】

議 会 報 告 会 実 施 計 画	委員会 テーマ	御殿場らしい生涯教育について	
	テーマ 設定目的	世代を超えた学びと交流を促進し、知識や経験を分かち合うことで、共に成長し続ける社会の実現を目指す。	
	対象団体	社会教育委員会、文化協会、コミュニティ・スクールディレクター 地域学校協働活動推進員、各支所の社会教育担当（地区担当）	
	調整事項	実施日	令和7年12月19日（金）
		時間	午後 1時30分 ~ 午後 3時30分
		会場	市役所東館 第1・2委員会室
	出席 予定者	福社文教委員会委員 7名 社会教育委員、文化協会、コミュニティ・スクールディレクター 地域学校協働活動推進員、各支所の社会教育担当（地区担当） 計19名	
		役割 分担	開会挨拶・基調報告：恵美子委員長、閉会挨拶：高村副委員長 司会：昌美委員、計画書：阿久根委員 受付：阿久根委員・川上委員・池谷委員 案内通知：恵美子委員長、グループワーク：全員
		資料	資料作成：高村副委員長を中心に全員
	その他		
備考	行政視察した内容を基調報告した後、3グループに分かれ、ワークショップ形式で問題や課題の抽出、また共有して取り組んでいくべきこと等を意見交換する。		

議 会 報 告 会 実 施 報 告	実施日時	実施日	令和7年12月19日（金）	
		時間	午後 1時30分 ~ 午後 3時30分	
		会場	市役所東館 第1・2委員会室	
		出席者	福社文教委員会委員 7名、社会教育委員、地域学校協働活動推進員、文化協会、コミュニティ・スクールディレクター、各支所の社会教育担当（地区担当） 計19名	
	実施内容 概要	報告会テーマ 「御殿場らしい生涯教育～誰もが学び続けられるまちの実現～」 「御殿場らしい生涯教育について」をテーマに実施した行政視察等について、基調報告した。その後、3グループに分かれ、意見交換し、グループごとに発表した。		
		報告書	報告書作成 議会だより	全委員提出、委員長とりまとめ 小林委員長 詳細は別紙 原稿は後日
	備考			

別紙様式2

議会報告会実施報告書

開催日時	令和7年12月19日（金） 午後1時30分～午後3時30分						
開催場所	市役所東館第1・2委員会室 ほか						
テーマ	御殿場らしい生涯教育～誰もが学び続けられるまちの実現～						
出席議員	<table border="1"> <tr> <td>司会者</td><td>小林昌美</td></tr> <tr> <td>報告者</td><td>基調報告：小林恵美子</td></tr> <tr> <td>その他</td><td> ワークショップのグループ A：小林昌美・阿久根真一 B：芹澤勝徳・川上秀範 C：高村芳章・池谷晴一 </td></tr> </table>	司会者	小林昌美	報告者	基調報告：小林恵美子	その他	ワークショップのグループ A：小林昌美・阿久根真一 B：芹澤勝徳・川上秀範 C：高村芳章・池谷晴一
司会者	小林昌美						
報告者	基調報告：小林恵美子						
その他	ワークショップのグループ A：小林昌美・阿久根真一 B：芹澤勝徳・川上秀範 C：高村芳章・池谷晴一						
参加人数	福祉文教委員7名、御殿場市社会教育委員3名、御殿場市文化協会2名、 コミュニティスクールディレクター4名、地域学校協働活動推進員1名、各支所の社会教育地区担当6名 計23名						
実施内容	<p>「御殿場らしい生涯教育について」を年間テーマとし、行政視察した内容を基調報告した。</p> <p>その後、3グループに分かれ、「行政主体の生涯学習の現状と課題、要望と提案」「市民主体の生涯学習の現状と課題、要望と提案」を論点とし、ワークショップ形式で、それぞれについて意見交換した。</p> <p>ワークショップ終了後、各グループの報告、参加者の代表からの意見発表を行った。</p>						
主な意見 ・提言等	別紙の報告書及びアンケート集計結果のとおり。						

以上のとおり、報告します。

令和8年1月8日

御殿場市議会議長 様

御殿場市議会 福祉文教委員会 委員長 小林 恵美子

令和7年12月19日(金) 福祉文教委員会 議会報告会実施報告書



1. 議会報告会の概要

福祉文教委員会では、「御殿場らしい生涯教育～誰もが学び続けられるまちの実現～」をテーマとして、議会報告会を開催した。

本報告会では、市民参加型のグループワークを実施し、生涯学習、教育、文化、地域活動に関する現状や課題について、参加者から率直な意見を聴取した。

本報告書は、各グループから提出された意見を整理し、市民の現状認識や課題意識を明らかにするとともに、今後の委員会活動及び市政への反映に資することを目的とするものである。

なお、本議会報告会の参加者は、社会教育委員3名、文化協会正副会長2名、地域学校協働活動推進員1名、コミュニティ・スクールディレクター4名、各地域の社会教育担当職員6名であり、それぞれの立場から専門的かつ実践的な意見が多く寄せられた。

2. 生涯学習をめぐる現状認識

市民からは、本市において、各地区の取組をはじめ、文化協会、スポーツ協会などの関係団体が、それぞれの分野で生涯学習や文化・スポーツ活動に力を入れていることについて、一定の評価が示された。

また、公民館や学校、文化・スポーツ施設などの基盤が整っていることも、本市の強みとして挙げられた。

一方で、これらの取組は地区や団体単位で行われる傾向が強く、市全体としての体系的な整理や横断的な広がりが十分とは言えないとの意見も多く見られた。

3. 市民から寄せられた主な課題

(1) 対象世代の偏り

- 生涯学習の対象が高齢者中心となっているとの認識
- 働く世代や子育て世代が参加しにくい現状
- 講師や受講者の高齢化により、活動の継続性や発展性に課題があるとの指摘

(2) 参加環境・条件の課題

- 平日昼間開催が多く、就労世代が参加しづらい
- 受講料等の経済的負担が参加の障壁となっている
- 託児や子どもの居場所が確保されていない

(3) 広報・情報発信の課題

- 行政による情報発信は行われているものの、市民に十分届いていないとの認識
- 紙媒体中心の広報では、若年層への情報伝達が難しい
- 文字の大きさや表現が分かりにくいとの意見

(4) 地域・移動に関する課題

- 学習拠点が中心部に偏在していることによる地域間格差
- 高齢者や子どもにとって、移動手段が参加の大きな障壁となっている現状

4. コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動に関する意見

今回の議会報告会では、生涯学習とあわせて、コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動に関する意見も多く寄せられた。

市民からは、学校を核として地域全体で子どもを支える取組の重要性について一定の理解が示されたなかで、次のような課題も指摘された。

- ・ コミュニティ・スクールの制度や役割について、地域や市民に十分に認知されていない
- ・ 学校運営協議会、地域学校協働活動、各種団体の活動が並立し、役割分担が分かりにくい
- ・ 地域で学校を支えたいという思いはあるものの、具体的な関わり方が分からぬ
- ・ コーディネーター等の担い手が限られている

一方で、子ども時代から地域と関わる経験が、将来の地域定着や人材育成につながることへの期待や、学校を地域の学びや交流の拠点として活用していくことへの前向きな意見が多く見られた。

【ワークショップの様子】

A グループ



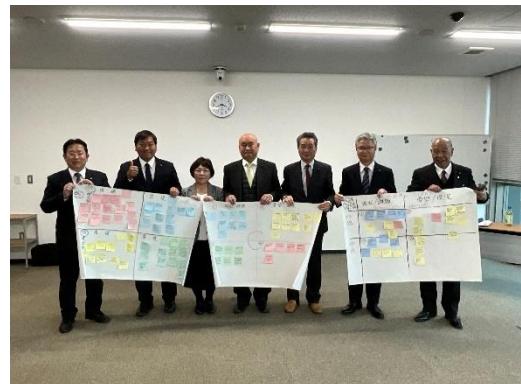
B グループ



C グループ



各グループの意見



5. 評価できる点及び今後の可能性

- 公民館、学校、文化・スポーツ施設など、生涯学習を支える基盤が整っていること
- 市民や関係団体の文化活動、地域活動への意欲が高いこと
- 市民主体の取組には、柔軟な発想や実践力があること
- コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動が、生涯学習や地域づくりと結び付く可能性を有していること

6. まとめ

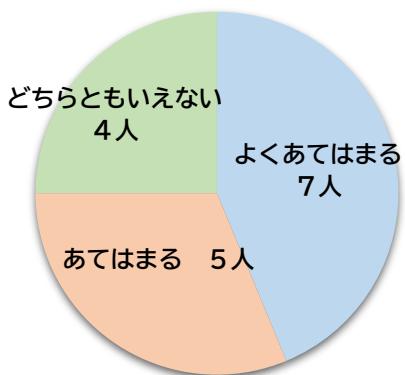
今回の議会報告会を通じて、生涯学習に対する市民の関心と期待の高さが改めて確認された。しかしながら、制度の分かりにくさ、情報発信の不足、参加環境や移動手段など、多くの課題が明らかとなった。

特に、コミニティ・スクール及び地域学校協働活動については、子どもを起点とした生涯学習や地域づくりの重要な要素である一方、認知や連携の面で課題を抱えていることが浮き彫りとなつた。

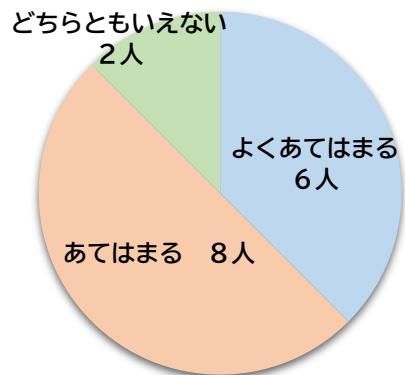
本委員会としては、今回寄せられた市民の声を重く受け止め、今後の調査・検討を進めるとともに、市政への提言につなげていくものである。

議会報告会アンケート結果

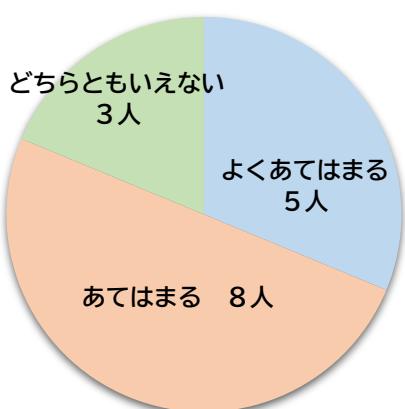
テーマは適切であったか



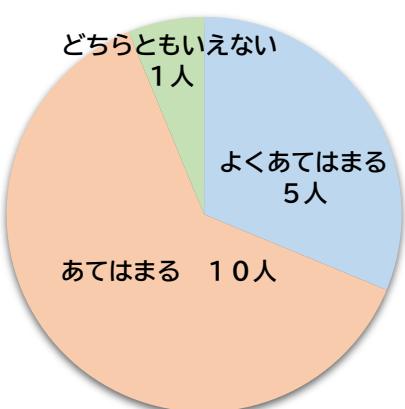
運営は適切であったか



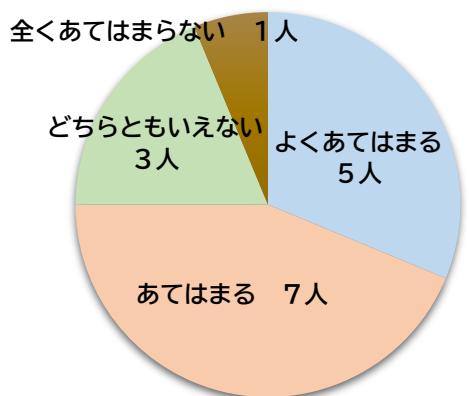
資料は適切であったか



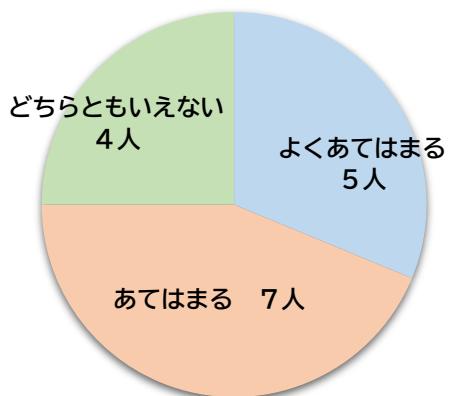
時期は適切であったか



時間は適切であったか



ほかの人に勧めたいか



【今回の報告会に関して改善したほうがよい点・ご要望等】

- ・学びました。とても参考になりました。
- ・資料がもう少し細かい部分でも知りたいので、書いてほしかった。
- ・学校関係の方が多くを占めていたが、もっと広く様々な立場の方に来ていただいた方が良いと思う。
- ・限られた時間、密度の濃い話し合いになりました。
- ・知見が広がりました。ありがとうございました。
- ・時間が短いためもう少し丁寧に議論できる時間が確保できるように余裕を持ったタイムスケジュールにしてもらいたい。
- ・グループごとに役割が決められ、進行の方は適切に助言を加えて話が進んだ。
- ・多くの意見が聞けて大変勉強になりました。今後の活動に活かしていきたいと思います。
- ・グループワークのテーマが分かりにくかったが、議論を重ねて軌道修正できたことはよかったです。
- ・表面のアンケート項目は高評価ではありますが、グループワークの内容については、まったく関与していないことであったため、答えることができなくて、CSD（コミュニティスクールディレクター）として参加している意義を感じられず困ってしまった。
ですが、議員さん方が生涯学習、学び続けられる生涯教育ということまでにしてくださったので、学校教育と関連付けて話に参加することができた。
そもそも、最初の分け方（生涯教育の行政と市民の現状と課題や要望）にしたのは、何か元となるよくない現状があつてのことだったのだろうか。だとしたら、CSD から考えを伝えることは難しかったと思いますよ。
- ・前年度のテーマに対する評価と課題（地域への具体的な働きかけ）どうしたのか。
もう少し聞かせてほしかった。
⇒本年度のテーマになるのでは。
課題が解決しなかったら、引き続き同じテーマでも取り組んだ方がよいのでは。

【市議会に伝えたいこと】

- ・コミュニティスクールの運営をどのように進めたらいいか悩んでいます。
予算が必要です。一生学ぶために働きながら職場を離れて（勤務中に）オンラインをできるようにさせていただきたいです。
- ・本日は、私どもの声を聞いていただきありがとうございました。
今後も市民の様々な声に耳を傾け、市政の参考にしてほしいと思います。
- ・開かれた市議会、市議会が身近に感じられたい機会でした。ありがとうございました。
今後も続けてほしいと思います。
- ・生涯教育のとらえ方が人それぞれであり、課題と要望がいろいろあった。
市民を主体とする考え方で、御殿場らしさをどう出していくかが問題と思う。
- ・予算を増やすことが大変な事と思われますが、どうか宜しくお願ひいたします。
- ・学校現場ではランサムウェアによるシステム障害、共有サーバー破壊によって今までのデータがなくなって大変混乱しています。それについての説明が不十分であったり補償について何も触れられていなかったりしています。教育委員会も被害者ですが、教職員が疑心暗鬼にならない方向性を示してほしいと願っています。
- ・いろいろな課題を有している児童が多いです。学校・学級によっては授業が成立しないようなところもあります。文教委員の皆様にはぜひとも生の学校の実態を参観し、現状を知りたいです。
- ・お忙しいなかありがとうございました。
- ・市議会さんに伝えたいというよりも、他グループの話を聞いていて要望したいこととして。
ケーブルテレビの市民関連のプログラムを番組表として広報ごてんばとか岳麓新聞とかに掲載してほしい。すると、様々な活動が知れ、「見てみようかな」と思ってもらえるかと。
- ・各支所ができること、各支所で扱えることをもっと増やしてほしい。

御殿場市議会 福祉文教委員会 令和7年度 議会報告会

テーマ

御殿場らしい生涯教育

～誰もが学び続けられるまちの実現～

日時：令和7年12月19日（金）午後1時30分

会場：御殿場市役所 東館3階 会議室

次 第

- 1 開会のことば
- 2 委員長あいさつ
- 3 委員自己紹介
- 4 基調報告
- 5 ワークショップ（分散会）の説明
- 6 ワークショップ
- 7 各ワークショップの発表
- 8 質疑応答
- 9 参加者感想
- 10 お礼のあいさつ
- 11 閉会のあいさつ

メンバー紹介



委員長 小林 恵美子



副委員長 高村 芳章



委員 阿久根 真一



委員 荆澤 勝徳



委員 小林 昌美



委員 池谷 晴一



委員 川上 秀範

令和7年度 御殿場市議会
福祉文教委員会

行政視察基調報告

1 委員会紹介と年間テーマ

2 視察先及び事業内容

令和7年7月2日～3日

(1) 兵庫県神戸市

(2) 兵庫県姫路市

(3) 兵庫県丹波市

令和7年10月28日～29日

(4) 茨城県牛久市

(5) 茨城県日立市

(6) 茨城県小美玉市

3 まとめ

1 委員会紹介と年間テーマ

福祉文教委員会とは

健康福祉部 及び 教育部を所管

前年度は「御殿場らしい共生社会のまちづくり」

福祉→健康福祉部所管

今年度は「**御殿場らしい生涯教育について**」

教育→教育部所管

2 観察先及び事業内容

- 兵庫県神戸市
兵庫県姫路市
 - 兵庫県丹波市
 - 茨城県牛久市
 - 茨城県日立市
 - 茨城県小美玉市
- リカレント教育
生涯学習大学校、
好古学園大学校
 - 地域学校協働活動
 - 生涯学習
 - ひたち生き生き百年塾、
ひたち市民力レッジ
 - 地域学校協働活動

2 (1) 兵庫県神戸市

神戸市役所

地域ニーズに応えるリカレント教育 プラットフォーム構築事業について

「リカレント教育」とは、一度社会に出た人が、仕事を続けながら、あるいは仕事から離れた後に、必要なタイミングで再び教育を受け、仕事と教育を繰り返してキャリアを再構築・拡張していく仕組みを指します。

3つの柱

- ①大学都市の強み
- ②産学官（大学・企業・自治体）連携
- ③地域ニーズへの対応

2 (1) 兵庫県神戸市 特徴・アプローチ

- ① 大学都市神戸産官学プラットフォーム（産官学連携機構）が、文部科学省リカレント教育プラットフォーム構築支援事業」を活用して、実践型プログラムを開設
- ② プログラム設計に際して、「企業や地域が今本当に求めている力」「地域が抱える課題(空き家・空き地活用、地域共生社会など)」をヒアリングし、教育に反映させている
- ③ 働きながら参加しやすいよう、土曜日開講、ハイブリッド（対面+オンライン）、eラーニング化といった柔軟な学びの形式を取り入れている

出典：(一社)大学都市神戸産官学
プラットフォーム事務局HP



2 (2) 兵庫県姫路市 生涯学習大学校、好古学園大学校

- ▶ ① 姫路市立好古学園大学校
- ▶ 高齢者に学習の場を提供し、その生きがいと社会参加の確保を図る目的で、昭和45年8月に「老人大学好古学園」として姫路市が設立。その後、平成16年4月に「好古学園大学校」に学校名を変更
- ▶ ② 姫路市立生涯学習大学校
- ▶ 社会人に生涯学習の場を提供し、知識・教養・技能の涵養を図り、地域住民の福祉と地域社会の活性化に資する目的で、昭和56年4月に姫路市が設立



2 (2) 兵庫県姫路市 生涯学習大学校、好古学園大学校

○姫路市立好古学園大学校

- ・敷地面積：3,635m²
- ・建物規模：鉄筋コンクリート造3階建 延床面積 4,484m²
- ・入学資格、定員：大学課程は60歳以上の者、定員430名（4年制）
- ・大学院課程は大学校を卒業した者、定員360名（2年制）
- ・学科：園芸科、陶芸科、書道科など9科目で週1回開講

○姫路市立生涯学習大学校

- ・敷地面積：9,302m²
- ・建物規模：鉄筋コンクリート造2階建 延床面積 4,474m²
- ・入学資格：18歳以上の社会人（好古学園在学者は不可。）
- ・修業年限、学科：1年コース くらしの法律、楽しく学ぶ政治経済など15科目
2年コース くらしの科学、健康生活など14科目

2 (3) 兵庫県丹波市 地域学校協働活動

「学校（学び）を核とした地域づくり・ひとづくり」

コミュニティスクールと地域学校協働活動の一体的な推進を目指す

◆たんばふるさと学

主な業務：学校支援コーディネーターによるゲストティーチャーの招聘

◆地域学校協働活動

主な業務：地域（自治協議会）と学校との連携調整。体験学習・防災学習等の事業調整



令和8年4月の統合に向け事業調整

2 (3) 兵庫県丹波市 地域学校協働活動

・今後の取り組み

- ①中学校単位で地域懇談会を開催し地域の子ども像を共有するなど地域の実情に即した事業推進を目指す。
- ②県教育委員会の地域連携アドバイザー制度を活用し、学校と地域の連携・協働する仕組みの円滑な導入・実施に向けた支援を行う。
- ③年度内に学校協働活動推進ハンドブックを作成し、地域学校協働活動に携わる方への電子配布を行う。



目指すところ→学校（学び）を核とした 地域づくり・ひとつづくりの実現

共に学ぶ・地域社会で子供を育む・学びをとおした生きがいづくり

2 (4) 茨城県牛久市 生涯学習

- ▶生涯学習講座
牛久市民が自ら企画
市民が講師となり開催

牛久市民が自ら企画する生涯学習講座について、成り立ちから現在までの経過と実績報告、そして市の関わりを座学で学ぶ。また、5つの生涯学習センターのうち、中央生涯学習センターを見学する。



2 (4) 茨城県牛久市 生涯学習

具体的取組

- ① 5つの生涯学習センター
(御殿場市で言えば支所のようなもの)
- ② 広報誌にて年2回講師を募集
- ③ 講座は芸術、文化、社会、工芸、音楽、
美容健康、子育て、スマホ講座、実用等々
- ④ アンケート調査結果では市民の95%が満足、
90%の市民が今後の継続を希望

2 (5) 茨城県日立市

ひたち生き生き百年塾について 特徴的なところは…



- ① 推進する本部体制が確立されている！
- ② 各チーム、プロジェクトごとに毎月の企画会議を開催している！
- ③ 74名の市民委員を中心とした活動がなされている！

継続させる秘訣は…

- ・市民主体の学びと地域づくりを両輪とした仕組みづくり。
- ・「学び」だけに特化しすぎず、楽しくワクワクするような企画を考案。

出典：日立市HP

2 (5) 茨城県日立市 ひたち市民カレッジについて 概要は…

- ・緑豊かな大学キャンパスで長期間新しい仲間と学び、修了後もその関係が継続されている。
- ・大学教授など多彩な講師によるアカデミックな講座を設定。

目指すところは…

- ・仲間づくりを意識し、交流の輪を広げ活動を活性化させていく。
- ・教わるだけではなく、体験発表など受講者も参加し活躍できる場をつくる。



IC 茨城キリスト教大学

2 (6) 茨城県小美玉市

コミュニティ・スクール・地域学校協働活動について

・コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）

保護者や地域住民等が一定の権限と責任をもって学校運営に参加
育てたい子供像、目指すべき教育のビジョンを共有

・コミュニティ・スクールによる活動が地域学校協働活動

キーワード

学校運営協議会の活性化
広報活動（コミスク通信）
コーディネーター

出典：小美玉市教育委員会HP

The brochure is titled "第6号" (Issue 6) and dated June 20, 2014. It features several sections:

- 大人いきいき 子どもすくすく**: Shows children playing and learning.
- 技術教科 (家庭科・図画工作科・体育科など)**: Shows students working on projects.
- みんなのおかげで、子どもたちの「かかな」「て書き」が増えています。**
- 大人同士のつながりへ**: Shows adults interacting.
- 今和7年6月20日に「やすらぎまつり」が開催されました。**
- Q&A**: Questions about the school's future direction.
- お問い合わせ**: Contact information.
- お問い合わせ**: Contact information.

2 (6) 茨城県小美玉市 小美玉市の現状

開始初年度

・・・学校も地域も意味がわからなかった
今では

コーディネーターが学校運営協議会の運営、司会
地域の方々の方からお手伝いをしたいという声も
居住地域でない他の学校の支援にも積極的に参加
(感想) 教育長と社会教育主事の熱意がものすごい

本市にとって

- 一足飛びにここまで活動は・・・
- 学校の願いと地域からの要望とを摺り合わせる機会に
- 子どもたちのために



3 まとめ

1 観察から得られた学び

- 市民が主役となる場づくり
- 新たな学びの仕組み

2 今後に向けて

- 「誰もが学び続けられるまち」
- 多様な学びの機会の確保
- 地域コミュニティの活力を高める
- 御殿場ならではの豊かな学びの循環

ご清聴ありがとうございました。